

地域実習I(国内)

[戻る](#)

科目名	地域実習I(国内)			コード	107200			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
実習	選択	2	2～4年	前期				
担当者名	安溪 遊地							
授業概要								
キャンパスを飛び出して地域にでかけよう！大学の元気を地域に、そして、地域の元気を大学に運ぶメッセンジャーになりましょう。実習先は学部で紹介します。もちろん、自分で見つけてきた実習先へ行くこともできます。40時間以上の実習に、事前事後の指導をあわせて、レポートを作成します。地域での活動から発展して、タイやケニアにまで足を伸ばすきっかけをつかんだ先輩もいます。地域であてにされる経験を通してあなたの人生にとって忘れがたい人と人の絆をみつけましょう。								
到達目標				成績評価の方法と基準				
地域での人間関係を作る経験をつむ。それを通して地域の未来を創ること、自分の未来をみつけることの接点を発見し、地域とともに元気になって、グローバルな舞台に飛び出す跳躍力を身につけよう。				事前指導を受け、実習合計40時間以上を実施し、そのことが確認できる実習手帳とレポートで評価する。ホームページ用などになるべく写真を添え、レポートのファイルも提出すること。				
学習目標				評価項目と割合				
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) 地域にでかけて学ぶ基本的な礼儀を身につける	20	10	0	10	0	0	0	0
(2) 実際に地域にでかけて実習を経験する	50	0	0	0	25	0	0	25
(3) 地域課題に対してアイデアをだすことができる	15	0	0	0	5	10	0	0
(4) わかりやすいレポートとして情報発信できる	15	0	0	0	10	5	0	0
授業の項目と内容				自主学習課題				
(1) オリエンテーションと事前指導(1)								
この授業のめざすもの。地域にでかけていく前に身につけておきたい、最低限の基本的礼儀作法。				実習先でのマナーについて、 http://nagarjuna.ypu.jp/ankei_lectures/148.html に載っているウェブページを見て、クイズ形式で自分の知識を試してみる。				
(2) 事前指導(2) 地域での活動の意義や心がけについて								
地域実習では何をめざすべきか、気をつけるべきことなど。受け入れ側からも説明に来ていただく予定です。				国際文化学部のウェブページ http://www.i.ypu.jp/jissyu/index.html などから実習経験者の感想やレポートを読んでおくこと。				
(3) 事前指導(3) 地域での活動の事例紹介と実施計画書作成								
これまでの活動の事例の紹介。経験者(先輩)の声など。山口県内の実習先の場合、実習の開始までに担当教員とともに現地訪問することを原則とする。				http://ankei.jp で、「地域実習」を検索すると、そこにも情報がある。				
(4) 実習(1)								
実習先での実践。1回180分程度で、ひとコマ分と見ますが、実習先との相談で、1回の時間配分や、曜日などは変わる。週1回の場合は、合計10週間で終了できる。				実習ノートの書き方を学ぶ。				
(5) 実習(2)								
実践。				見たことを書く練習。				
(6) 実習(3)								
実践。				聞いたことを書く練習。				
(7) 実習(4)								
実践。				感じたこと、考えたことを書く練習。				

(8) 実習(5)	
実践。	写真などの映像を撮る練習。
(9) 実習(6)	
実践。	映像を実習手帳に張り込む。
(10) 実習(7)	
実践。	レポート作成に取りかかる。
(11) 実習と事後指導(10)	
実践を終えるにあたって。	お礼状を書いて差し出す。
(12) レポート作成の指導	
経験したことを、後輩や地域の人にもわかるように、レポートに仕上げることを学ぶ。	木下是雄『レポートの組み立て方』(筑摩学芸文庫)などで、レポートの書き方の基本を確認しておく。
(13) プレゼンテーションの練習	
口頭で活動内容を伝えるための練習をする。予行演習なしのプレゼンテーションはすでに失敗である。	自信をもって発表できるまで、友人にきいてもらうなどして練習する。
(14) 学生による口頭発表会	
実習先の方や地域の人々にも公開して実施する。時間と場所は、あらためて相談する。	プレゼンテーションソフトの使用に習熟する。
(15) 次なる実習にそなえて、自己評価	
全体を振り返り、反省点などを共有しあう。授業改善のために、学生と教員と地域のみなさんの意見をもちよって、今後のために生かす体制をとる。	学生による授業評価を忘れないこと。
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
参考書、教材は実習に応じて適宜きめる。	交通費、食事などは自弁を原則とするが、県民活動支援センターに登録している団体での活動および徳地地域の「徳地づくり達人塾」への参加の場合は、旅費の実費が支給される予定。実習先とのマッチングがうまくいかない場合には、「放棄」扱いとなるが、後期の地域実習を履修することができる。夏休みに集中して実習の多くの部分を行う場合は、成績評価は10月となる。参加者には、ボランティア保険に加入していただく(1年間150円)。
受講生へのメッセージ	
今はグローバルとローカルの再編の時代です。地域実習を通してこの問題に取り組むことは重要で、意味ある活動です。積極的に参加して下さい。	